



吉岡清子名誉教授のご逝去を悼む

本学名誉教授吉岡清子先生は、平成六年一月一日午前零時三十八分、心不全のため、満八十二歳の生涯を閉じられました。ここに謹んで哀悼の意を表します。

先生は、昭和八年に奈良女子高等師範学校家事科を卒業され、高等女学校に勤務された後、同二十三年に広島女子高等師範学校に着任されました。のちに、広島大学教育学部福山分校に配置替えになり、以降二十七年間にわたり家政教育学の発展と教育界の人材養成のために尽くされました。

学内にあつては、各種委員長や代議員および学科主任等の委員として尽力されました。特に、昭和五十三年の広島大学教育学部の改組では、家政教育学講座の設立に従事され、深い経験と識見により特色のある高水準の学科を確立して下さいました。外にあつては、日本家政学会中・四国支部長として学会の発展と後進の指導に努められました。

先生のご専門は、被服整理学分野で界面活性剤の洗浄と再汚染に関する系統的な数々の研究で、その一連の研究成果は学会で高く評価され、洗剤の品質表示の改正の基礎となっています。先生が世に問われた『被服整理学』（広川書店、昭和四十四年）は、各種の大学で採用され、十四版まで重ねられました。

先生の何よりの魅力は、天真爛漫な少女のような純真さで、学生へ対する深い思いやりを注がれたその誠実な人柄でありました。学生の誰もが先生を慕い、病床に伏せられてからも教え子たちが訪れ続けました。今、おおいなる柱を失い、悲しみは限りなく深いものですが、先生のお姿を胸に、耕され蒔かれた種を実りつづけさせることを誓います。

先生、どうぞ安らかにお眠り下さい。合掌

（教育学部家政教育学講座 福田公子）



上村英夫技官のご逝去を悼む

理学部特殊加工技術開発室光学系試料製作部門 上村英夫技官は、全国の大学・研究機関で地質学の発展に携わっている人々の期待をよそに、平成五年十一月三十日急逝されました。享年四十二歳。上村英夫技官は、昭和四十四年広島電機高等学校機械科を卒業され、日本国有鉄道 中国鉄道学園、同中国支社での勤務に続き、平成元年五月一日以来、理学部において岩石鉱物の光学的研究試料の製作に従事されてきました。

以後今日まで、特殊技術の要求される職場にもかかわらず、生来の技能と努力をもとに地質学の発展に多大な貢献をされ、理学部地球惑星システム学教室にとってはなくてはならない技術者として活躍されました。地質学のミクロの世界への挑戦にその技術が大きく期待されていた矢先のご逝去には、惜しんでも惜しみきれないものがあります。

上村さんは人一倍の責任感と旺盛な研究心をもって業務にあたられ、伝統的技術のマスターはもちろん、新たな技術開発にも意欲的に取り組んでおられました。新キャンパスへの移転では旧工作室の改組拡充にもその英知を発揮され、特殊加工技術開発室の発足に尽力されました。移転後も多忙な業務の中で開発室のパンフレット作成、理学部の公開にも積極的に参加されました。

同僚としての付き合いは決して長いとはいえないのですが、その温厚な人柄、物静かな言動は同僚後輩の範となり、若くして逝かれたことは誠に残念でなりません。御霊の安からんことをお祈りして追悼の言葉といたします。

（理学部地球環境進化学講座 沖村雄二）
（理学部特殊加工技術開発室 尾崎卓美）